

C—50 生体計測における計測誤差について —計測基準線設定上の誤差—

三重大教育 ○伊藤 令子
新潟大教育 清水 薫

1. 皮下脂肪や筋肉を含む生体計測では、計測方法の統一をはかり、練習を重ねても若干の計測誤差を免れることができない。そこでまず計測基準線（腕付根線）の設定に際し生ずる誤差について検討を試みた。

2. 研究方法は、成人男女各10名（20～39歳）を対象とし、肩峰点を基準として体表にそって0.5cm間隔に設定した5通りの腕付根線について適否の判定を行なった。

3. 主な成果はつぎのようである。

a) 腕付根線の適否判定についてエスエヌ比を求めると、判定精度は被検者の性別・前後面別に著差はみられない。

b) 最適位置は、男子ではほぼ肩峰点を通る位置であり、女子では肩峰点より0.5cm内側を通る位置であるが、判定者間に多少の差異がみられる。

c) 判定者内の判定幅の $\bar{x}$ は、最適位置 ± 0.5 cmであった。